

ハマフエフキの種苗量産技術

八重山支場

多和田真周、与那嶺盛次、大城 信弘

※ 藤本 裕、友利昭之助

I 親魚と産卵状況

親魚養成

親魚は前年度からの継続飼育魚13尾を使用した。1983年4月4日における親魚測定結果を表1に示す。前年度測定から160日経過後の、平均尾叉長は3.5cm伸長し、平均体重で420gの増量となった。体重については産卵盛期に親魚測定を実施したため、産卵回数が増すごとに体重の減量が予想される。

表1 養成親魚の大きさ

No.	尾叉長 cm	体 高 cm	体 重 g	No.	尾叉長 cm	体 高 cm	体 重 g
1	52.0	18.0	3,300	8	47.0	16.5	2,200
2	48.5	16.5	2,700	9	52.0	17.8	3,000
3	48.0	16.0	2,400	10	49.0	16.5	2,900
4	52.0	16.5	2,500	11	46.0	15.5	2,200
5	50.5	17.0	3,100	12	51.5	18.5	3,000
6	49.5	19.5	3,300	13	50.5	17.5	3,100
7	49.5	16.5	3,000				

※ 1983年4月4日測定

7月上、中旬から11月にかけて8尾の親魚が斃死した。罹病魚の斃死前の行動は群から離れる遊泳緩慢な親魚がみられるようになり、食慾減退から全く摂餌しなくなった。外見症状としては脱鱗、発赤、充血斑などで次第に黒化体色となり2~3週間後には斃死に至る。ヒブリオ病に類似した魚病と思われるため、抗生物質を飼料浸漬して給餌したが、罹病魚については摂餌がみられず、治療効果はみとめられなかった。

この魚病の出現はハマフエフキ親魚に限らず、海面生簀で養成中のマダイ、ミナミクロダイ、アイゴにも同様な症状で若干の斃死魚がみられているため、親魚養成中における魚病対策としての今後の大きな検討課題であろう。

産卵状況

図1に日別、表2に月別産卵状況を示す。産卵開始日は1983年1月17日で水温は20.1℃であった。例年だと2月中、下旬に産卵は開始されているが、産卵が早かったのは暖冬による影響だと思われる。1月には7回の産卵回数であったのが、2月は20℃以下低水温が

※現在の所属：沖縄県栽培漁業センター